

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500103		
法人名	特定非営利活動法人 まごころネットワーク		
事業所名	小規模多機能ホーム ほのぼのかん		
所在地	千葉県流山市大畔537		
自己評価作成日	平成26年1月31日	評価結果市町村受理日	平成26年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成26年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一敷地内にある他事業所と連携し、支え合う心をモットーに生き生きと安心した生活が送れるよう交流を持つ機会を作っている。
また、特に力を入れているのが機能訓練です。今お持ちの心身の力を維持・向上していくことは、生活の上でとても大切なことと考え、出来ることはなるべく自分で出来るように。また、介護者の負担がなるべく軽減されるように、生活の視点に立った、生活支援の機能訓練に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

急速に開発が進んでいる市街地に隣接しており、インフラから住民の生活まで環境が激変している中にあるホームである。施設長の強い思いである「支え合う」心を持って利用者に寄り添い、安心して暮らせる支援が行われている。2006年の開設時からの3名の利用者を含め、利用登録者は7名と少ないがホーム専任の看護師を配置するとともに、一名からの泊りにもキッチンと夜勤者を配置するなど懸命の努力が見られる。今年の達成目標であった家族との連携もアンケート調査への協力という形で実現された。また回答者全員から「利用者のいきいきした表情が見られた」という評価が得られるなど、ホーム長および職員の日々の実践が結実している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 小規模多機能ホーム ほのぼのかん	理念である「支え合う」をモットーに我が家のように安心して過ごせる場所づくりに専念している。	利用者・家族そして職員がお互いに人として平等に「支え合う」ことで、利用者の安心した在宅生活が継続できるよう支援しようという理念を共有して実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民とのふれあいや自治会での共同作業、また、近隣幼稚園との交流等、ご利用者と地域とのつながりを大事にしている。	自治会の共同作業や地域の行事に積極的に参加することで事業所自体が地域の中で存在感をアピールできており、利用者の安心の生活に繋がっている。また、小・中学生の職業体験などホームの力を生かした地域貢献もできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小・中学生の職場体験、高校・専門・大学生の介護実習、職業訓練の実習等受け入れ、また、市内の県立高校と初任者研修の資格取得サポートの共働事業等、事業所の特性を生かした取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者・ご家族、地域の方、市役所・地域包括支援センターの方からの意見を参考にし、その後の職員総会で話し合い、サービスの向上につながるよう取り組んでいる。	年に4回実施している。流山市では運営推進会議に市職員の参加を推進しており、ホームだけでなく地域全体の情報の共有ができています。避難訓練や自治会、地域の啓蒙などについて活発な意見が交わされ、運営に反映させている。	ホームの環境や利用者の状況などの変化が加速する時代背景もあるので、開催回数の増加や災害時の対策等について引き続きご検討頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携を大切に、協力体制がとれるように努めている。	介護支援課職員の運営推進会議への参加のほか、施設長、ホーム長が積極的に連携を取る努力をしている。大規模都市開発地域に隣接しており環境の変化が激しく、今後も市との連携強化が不可欠である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する具体的な行為をきちんと理解した上で、身体拘束ゼロを徹底しており、ご利用者が自由に生活を送れるように心掛けている。	身体拘束しない意義については理解が徹底している。利用者が自由に過ごせるよう見守りの強化で支援している。泊りの時は、家族からの要望でセンサーマットを使用する場合もある。玄関には防犯用センサー・ライトを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等について勉強会等を行っている。また、日頃のケアの中から身体面・精神面の観察を行い、小さな変化にも見過ごさないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について勉強会等を行い、内容の理解に努めている。また、利用の必要性については適宜関係者と話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者・ご家族と読み合わせをし、内容を十分に説明し理解していただいている。不明な点があれば電話でも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	送迎時・訪問時の際や運営推進会議において、ご利用者やご家族の要望を伺い、出された意見や要望は運営に反映できるように努めている。	家族からは送迎時や訪問時に話を伺ったり、運営推進会議にも参加があり、毎回ホームを理解しようとする発言がある。出された意見や要望は真摯に受け止め、運営に反映できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員にアンケートを取り、個別対応の機会を設けている。また、職員総会での話し合いも行い、少しでも意見や提案を聞ける機会をつくり、反映できるように努めている。	職員アンケートをもとに個別面談をしたり、ホーム単独や施設全体の職員総会で話し合いを持つ等の環境ができています。職員ヒアリングでも、日々の介護の課題や介護技術全般にわたる率直な意見を聞くことができました。	出された意見をホームに適した形で分類、蓄積し、実践に生かしていけるよう一層の工夫に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を把握し、労働条件を良くする努力をしている。また、目標意欲や人間関係にも十分配慮し、職員全員がやりがいを持ちながら、働きやすい職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップを奨励している。研修等に積極的に参加させており、内部研修、勉強会にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会、研修会などに積極的に参加させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴を心がけ、できるだけご本人が素直な思いを話せるような信頼関係や環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴を心がけ、ご家族との信頼関係づくりや相談・要望等に応えられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の状況をよく見極め、その方に適したサービス利用を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	互いが個人として尊重されながら、利用者と介護者という壁を取り払うことで、いい意味での対等な関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族、職員が共通な認識をもち、少しでもご本人・ご家族の支えになれるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との集まり、馴染みの店での会食、行き慣れた公園での散歩等、各ご利用者が大切にしてきた繋がりは出来る限り継続できるように努めている。	馴染みの店での買い物や食事、元利用者宅から毎年届く観梅招待等に出かけている。また長年馴染みで来た畑仕事や針仕事など、本人が当たり前に行ってきたことを継続支援出来る環境があり、利用者の針を運ぶ手つきも滑らかである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握し、食事や入浴、レクリエーションなど1日の生活を通じて、ご利用者同士が自然に関わりが持てるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人にとってより良いサービスに移行が出来るよう支援している。また、契約終了後も必要に応じて支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ちの把握に努め、困難な場合は、できる限りご本人の日々の会話や表情・しぐさ等から理解できるように配慮している。またご家族からの意見も取り入れて検討している。	言葉掛けの多い対応で利用者に寄り添い、その日の要望や思いを推察して把握に努めている。声が出しにくい方にはイラストで示し、指差しで答えてもらうなどの工夫がみられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族からの情報だけでなく、これまでに関わった方からもできる限り情報の提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用時だけでなく、ご自宅での状況もご本人やご家族と情報を共有し、また、他職種からの情報も参考にしながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・各関係者との話し合いから最善策を常に検討し、ご本人にとってよりよいケア計画づくりに努めている。	本人・家族からの意向を基に、職員間で話し合いニーズを抽出し、在宅生活とホームでの生活が乖離しないよう、現状に即した無理のない介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や身体状況などを事細かく個別記録に記入し、各ご利用者の情報をスタッフ間で共有することで、その方に合ったよりよいケアの方法やモニタリングに反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人やご家族の状況に合わせて、柔軟にサービスを提供できるよう常に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各ご利用者が活用できるあらゆる地域資源を把握し、有意義な人生を送れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望を尊重し、気になることがあれば積極的に受診ができるように支援している。また、主治医との連携にも十分配慮し、情報共有に努めている。	受診支援では、家族からの情報を医師に伝えたり、また医師の説明を家族に伝えたりなどの橋渡しも務め、医師との連携を図るとともに、情報の共有にも繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職のとらえた情報を互いによく話し合い、必要に応じて受診をお勧めするなどの対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族や医療機関と密に連絡を取り合い、退院時もカンファレンス等、安心してスムーズに入退院ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の思いを一番に考え、事業所が出来る最善の方法を説明し、理解をいただいている。また、ご本人・ご家族の意向に少しでも沿えるよう、地域の方にもできる限り協力をいただき、チームでの支援に努めている。	看護師を配置しており、「希望により終末期にも事業所が出来る最善の方法で過ごして頂ける」ことを話している。また利用者宅の近所の方々には、本人在宅時の異状時には連絡してもらえるよう協力を依頼している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の外部研修には積極的に参加してもらい、また、内部研修を定期的に行い、全職員に緊急時に備えた知識と能力を身に付けてもらうよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に様々な状況を想定した避難訓練を実施し、職員、ご利用者共に避難の方法を身につけていただいている。また、災害時の備えや消防設備にも配慮し、災害時の対応については日頃から地域の方々と検討を重ねている。	消防署立ち合いの避難訓練の他、利用者も参加して勤務者1名時の夜間火災や都度出火元を変える等の想定で、自主訓練を毎月実施し、避難方法の体得に努めている。災害時には近くのお店から協力を得られる関係が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一個人として尊重し、態度や言葉使いに気をつけ、また、入浴・更衣・排泄時等もプライバシーが侵害されないよう細心の注意を払っている。	名前は「～さん」付けで呼ぶ、…しちやダメなどの子ども扱いはしない、他の人が聞いて不快に思われる言葉使いはしない等、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が意思表示をしやすいような言葉かけや雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて無理強いをせず、できるだけその方のペースや希望に合わせた支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者がその人らしく、尊厳をもって生活できるよう身だしなみやおしゃれには十分配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ご利用者の状態に合わせて、食事やおやつ作り・配膳・下膳など、できる限り一緒に出ることは行っていただいている。 また、テラスでの食事や外食をするなど、少しでも食事が楽しみとなるように努めている。	おやつ作り・配下膳など、出来る方は一緒に行っている。また、テラスやサンルームでの食事や行事食等を組み合わせてバラエティを持たせている。ミキサー食や摂食介助の方には、噛む力や飲み込み状態を確かめながらの食事支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養・水分バランスには十分配慮し、ご利用時とご自宅での状況をご本人・ご家族・事業所とで共有し合い把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ずその方に合わせた口腔ケアを行っており、夜間帯は義歯をお預かりし、消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレでの排泄を行ってもらっている。また、個々のご利用者の排泄パターンや能力を把握し、その方に合わせた方法や動作訓練を検討し、排泄の自立に向けた支援を行っている。	2人対応で支援する方もあるが、立位や座位の出来る方にはなるべくトイレでの排泄を支援している。在宅時と同じ介護方法になるよう、パッドの使用方法やベッドからの移動方法など、無理なく行える介護方法を家族に伝えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分・運動量には十分配慮し、また、ご利用時とご自宅での排泄状況をご本人やご家族の方とも情報を共有し、排便リズムの把握に努め、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	メリハリのある一日を過ごしてもらいたいと考え、なるべく午前中の中の入浴を奨めているが、個々のご利用者の体調や気分、スケジュールに合わせて支援を行っている。	坪庭を配した広めの浴室には、数人が一度に入れる大きな浴槽と機械浴槽が設置されており、時間帯の希望や体調等、状況に対応した入浴支援を行っている。浴室は太陽熱温水システムの床暖房がされて、冬季も安心の支援ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のご利用者の体調や気分、生活リズムに合わせて適宜休息していただいている。また、お部屋の環境や寝具等、少しでも安眠できるような工夫に取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ご利用者の服薬内容を把握し、服薬に変更があった際にはその都度、内容の確認を行っている。また、変化がみられた場合には小さなことでも記録に残し、関係者間での情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のご利用者がやりたいと思う事や楽しめる事はできる限り行えるように支援している。また、得意としている事や今まで行ってきた事も継続していけるように役割として行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者やご家族の希望を最優先にし、ご家族や地域の方とも協力して外食や買物、ドライブや花見、散歩などの外出支援ができるように支援している。	広い庭の一周や交通量の少ない農道の散歩等で近所の方とあいさつを交わしている。個々の希望を最優先に対応して、外食や季節毎の花見・買物など外出支援に努めている。セントラルパークカフェでお茶をするなど、利用者の楽しみを広げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のご利用者が趣味や嗜好品、日用品などで必要としているものに関しては、予めご本人・ご家族の了承を得てから買い物に行き、できる限りご自身で買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各ご利用者が気軽に電話や手紙のやり取りが行えるように、積極的に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほのぼのとした居心地のよい空間作りを心がけ、音・光・色・温度等、また、季節を感じられるような装飾にも配慮し、少しでも快適に過ごせるような工夫に努めている。	民家を改造したホームで、床の間や欄間が設えられた居間では、テレビを見ながらおしゃべりしたり寛いでいる。広縁から繋がるサンルームやウッドデッキでは日向ぼっこをするなど懐かしさを感じさせる趣があり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスや静養室などを自由に使ってゆったりと一日過ごしていただけるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お泊まりの際、居心地良く過ごせるよう、使い慣れたものや好みのものをご持参していただいている。	部屋はひばりやスズメなど野鳥の名がついている。泊りの時には使い慣れた枕や座布団等を持参の方もあり、居室でゆっくり過ごして頂けるよう支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各ご利用者の希望や状態に配慮して、居室や椅子の配置を行っている。また、居室やトイレ、洗面所の場所がわかるよう看板や暖簾などで工夫している。		